授業科目名	経済学入門（経・公）	担当教員名	長濱　幸一／佐藤　佑一				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	「経済学を学ぶ入り口」 　本講義は経済学部に入学した１年生を主な対象として、今後、本格的な経済学を学ぶために必要な基礎的な知識を提供する。経済学がどのような問題に関心を持ってきたか、現代の経済社会がどのように形成されてきたか、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な把握などが主な内容となる。
到達目標	①経済学に興味関心を持つことができる(意欲・姿勢) ②経済学がどのような問題に関心を持ってきたか理解できる(知識) ③現代の経済社会が形成されたプロセスを理解できる(知識) ④理論経済学の基礎となる考え方を身に着ける（知識） ⑤自分の考えや知識を的確に表現できる(技能)

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		本講義は２名の教員が担当する。採点割合は長濱(60%)、佐藤(40%)とする。それぞれの担当教員の評価方法については、各担当者が最初の講義

事前・事後学習	事前に配布する講義資料を利用して予習しておくことが望ましい。授業後は講義資料を利用して自分なりに整理することで、経済学に関する基礎的知識を増やすことができる。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『長濱…特に指定しない』			
	『『はじめて学ぶミクロ経済学・マクロ経済学』』	池田 剛士、土橋 俊寛（編集）,　岡田	税務経理協会	2023年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『長濱…授業の中で随時紹介する』			
	『佐藤…特に指定しない』			

備考	本講義の資料や講義の案内はGoogle classroomを通じて行う。なお２名の教員が担当するため、学期の途中でClassroomの切り替えなどが発生する可能性がある。またシラバスの授業内容が変更される場合もある。その場合は授業中に説明する。

授業の計画		
1	ガイダンスおよび経済学の基本的な思考法	経済学がどのような思考法を好むのか、それを学ぶことにどんな意味があるのかを考える。
2	経済学の問題関心①	経済学がどのような問題関心(分配・価値)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
3	経済学の問題関心②	経済学がどのような問題関心(生存・企業)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
4	現代日本経済の健康診断	橘木(2021)などのデータを参考にしつつ、現在の日本経済の現状について考える。
5	戦後日本経済史①	1990～2000年代の日本経済について概観する。そのうえで現代の日本経済の課題の原因がどこにあったのか考える。
6	戦後日本経済史②	1970～80年代の日本経済について概観する。現代の日本経済と、どのような点で差異があったのかを考える。
7	自分が〇〇だとしたら①	井堀(2025)などを基に、自分が日銀総裁だった場合、どのような金融政策が考えられるかを検討する
8	自分が〇〇だとしたら②	井堀(2025)などを基に、自分が財務大臣だった場合、どのような財政政策が考えられるかを検討する
9	戦後世界経済史	現在のグローバル経済がどのように形成されてきたかを概観する。
10	中間試験	ここまでの内容について試験を実施する
11	ミクロ経済入門①	経済学の考え方について学ぶ。経済の需要・供給について考える。
12	マクロ経済入門①	GDPについて考える。マクロ経済学の基礎は何か考える。
13	マクロ経済入門②	雇用など景気を反映した様々な指標について考える。
14	マクロ経済入門③	経済成長とは何かについて。歴史的な枠組みも考慮しつつ簡単に考える
15	ミクロ経済入門②	比較優位・貿易について考える。

授業科目名	経済数学　1組	担当教員名	野津　隆臣				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本科目では「経済学に必要な数学」を学ぶ。経済学の授業を理解するため、あるいは文献を独力で読み進めるために知っておくとよい数学のあれこれ（定理や公式を含む）を学ぶ。 中高の数学の復習を交えながら進める。中高の数学の復習は、数学好きにとっては物足りなく感じるかもしれない。しかし、「定義の理解」や「定理や公式の導出方法の理解」、そしてそれらの数学をどのように経済学に応用するかを併せて学ぶことで、数学好きにとっても楽しんで学習を進められる授業構成としたい。
到達目標	経済学科目の授業内容を理解するために必要な数学を理解する。 ・1次関数のグラフを描くことができて、連立方程式の解との対応を直観的に理解できる ・指数や対数が経済学でどのように用いられるか理解し、それらの計算をできる ・微分の計算をできる ・微分を用いて経済学の最適化問題を解ける

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	練習問題を課す
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業の復習として、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。それをふまえて練習問題を解き直してみること。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
		教科書は使用しない		

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	教科書は指定せず講義スライドを用いて授業を進める。授業計画は下記を予定するが、併せて、そのとき教員が読んでいる論文に関連したトピックスを紹介する。

授業の計画		
1	イントロダクション	事前準備として、授業で必須となる基本的な計算について確認する
2	グラフの読み方	需要と供給のグラフを用いてグラフの読み方を学ぶ
3	1次関数	1次関数と1次関数のグラフを学ぶ
4	連立方程式	直線の交点と連立方程式の解が一致することを学ぶ
5	指数法則	指数法則を理解する
6	対数法則	対数法則を理解する
7	単利と複利	指数法則、対数法則を復習し、複利計算をする
8	投資・貯蓄	指数法則、対数法則を復習し、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
9	数列	数列について学び、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
10	微分の定義	微分の定義を学び、定義に従って微分をする
11	微分の計算	微分の意味を知り、べき関数を微分できるようになる
12	最適化問題（1）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
13	最適化問題（2）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
14	微分の計算の応用	微分計算をする際に便利な公式を理解する
15	全体のまとめ	全体のまとめを行う

授業科目名	日本経済論　1組	担当教員名	川波　洋一				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は、主として戦後の日本経済の変遷をたどりながら、わが国経済が抱えている問題、政策的な特徴、世界経済におけるポジション、これからの日本経済について考える。大学に入学して最初に聴く講義であるという点に鑑み、できるだけ経済学への誘いとなるように平易に講義を進める。その際、物価、インフレ・デフレ、景気循環、不況や好況、経済成長、財政政策や金融政策などの経済政策、雇用や社会保障、産業構造や日本型経営、アジア経済や世界経済との関連、日本経済の未来など、基本的な問題についての知識が深められるようになることが目標である。経済学においては、専門的な用語を使うことがあるが、じっさいはわれわれの身の回りで起こっている身近な問題であることを実感してほしい。そうすることによって、受講者は、日本や世界で現実に生起するさまざまな経済問題に対する関心を持つようになることが大切である。受講者には、日本や世界で起こっている経済現象に目を向ける意味で、日々新聞に目を通すこととを薦めたい。
到達目標	本講義の到達目標 ・新聞や雑誌等の媒体を通じて経済現象を観察し、関心を持てるようになること。 ・経済学の用語に慣れ、日常的な学習において使えるようになること。 ・大戦後の日本経済の大まかな流れと現時点において日本経済が抱える問題を把握すること。 ・世界経済のなかでの日本経済の位置付けや他の国々との関係について説明できるようになる。 ・日本経済の将来について展望を持ち、他の人に語れるようになること。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	講義の内容に関する問題について記述式にて解答。
	その他		

事前・事後学習	指定するテキスト参考書について事前に目を通し、予習をしておくこと。授業の資料については、事前にアップするので、目を通しておくこと。また、日々起こっている経済現象に関心を持つためには、『日本経済新聞』をはじめとする新聞や雑誌（エコノミスト誌や週刊東洋経済など）に目を通し、経済現象の観察をすること。経済学を学ぶものは、日々生起する経済現象を観察する態度を身につけることが大切である。

事前受講を推奨する科目		
	経済学入門	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本経済』	橋本寿朗他著	有斐閣	2019年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本金融論(新版）第II部』	川波洋一・上川孝夫編著	有斐閣	2016年

備考	

授業の計画		
1	日本経済論では何を学ぶのか？	1．経済学とは何だろうか？ 2．日本経済論で学ぶ範囲 3．日本経済論を学ぶ意義 4．今日のまとめ
2	現代の日本経済	1．現代の日本経済を見る目 2．日本経済を見る観点 3．日本経済の現状 4．今日のまとめ
3	戦後の日本経済	1．戦後日本経済の枠組み 2．日本の経済復興 3．ドッジラインと市場経済への移行 4．今日のまとめ
4	日本の高度経済成長	1．どのようにして豊かになったのか？ 2．産業構造の高度化 3．産業政策の導入 4．今日のまとめ
5	経済成長を支えた仕組み	1．経済成長の理論とメカニズム 2．労働 3．資本 4．技術
6	日本経済の転機	1．日本経済における二つのショック 2．石油危機とスタグフレーション 3．安定成長への移行 4．今日のまとめ
7	赤字国債の発行と国際競争力	1．赤字国債の発行 2．増税論と行財政改革 3．日本企業の国際競争力 4．今日のまとめ
8	バブルと日本経済	1．アメリカ経済との関係 2．バブルの形成 3．資産価格の下落と実体経済 4．今日のまとめ
9	グローバル化のなかの日本経済	1．日本の債権大国化 2．金融自由化と金融ビッグバン 3．日本的システムの確立 4．今日のまとめ
10	日本の長期不況	1．失われた30年 2．デフレの深刻化 3．財政赤字の深刻化 4．今日のまとめ
11	日本企業の海外進出	1．プラザ合意と日本経済 2．海外直接投資と新興経済圏 3．アジア経済と日本経済 4．今日のまとめ
12	日本型システムの転換	1．企業システムの転換 2．メインバンクシステムの変容 3．雇用システムの変容 4．今日のまとめ
13	マクロ経済政策の展開	1．アベノミクスの実験 2．ゼロ金利から量的金融緩和政策政策へ 3．成長戦略の意味 4．今日のまとめ
14	グローバル経済の変曲点と日本経済	1．アベノミクスの理論的解釈 2．成長と分配の好循環 3．アベノミクスの転機 4．今日のまとめ
15	日本経済の未来	1．日本の低い成長率 2．日本経済の構造的問題 3．日本経済に未来はあるか？ 4．今日のまとめ

授業科目名	ミクロ経済学Ⅰ（経）	担当教員名	野津　隆臣				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	ものをつくり（生産）、つくったものを売買を通して他者とやりとりし（交換）、つかう・楽しむ（消費）、そんな世の中に私たちは生きている。生産、交換、消費のプロセスにおける当事者たちの意思決定に注目して、ミクロ経済学の基本的な考え方と基礎的な知識を学ぶ。 ミクロ経済学の対象は広い。上記内容と併せて担当教員が専門的に勉強している領域を紹介したい。
到達目標	・専門用語を説明できる ・市場参加者のインセンティブに注目できる ・さまざまなものの価格と取引量の変化を同じ原理で説明できる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	ミニットペーパー
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業の予習として2時間以上をかけて講義資料を参照すること。 毎回の授業の復習として2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業で提示される問いかけを検討すること。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
		教科書は使用しない		

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ミクロ経済学の第一歩』	安藤至大	有斐閣	2021
	『マンキュー入門経済学』	N・グレゴリー・マンキュー	東京化学同人	2025

備考	教科書は指定せず、講義スライドを用いて授業を進める

授業の計画		
1	イントロダクション	経済学の専門用語を用いて身近な事象を表してみる
2	財、サービス、価格	価格とは何か身近な財・サービスで考える
3	価格受容者の想定と需要	価格受容者について学ぶ。完全競争市場では全買い手が価格受容者になることを学ぶ。
4	需要曲線と需要の法則	価格受容者としての買い手の行動の性質を考える
5	需要量と需要	「需要量」と「需要」の違いを学ぶ
6	価格弾力性	価格弾力性について学ぶ
7	需要の変化、需要曲線のシフト	身近な事象を通じて「需要量」の変化や、「需要」の変化について学ぶ。需要の変化と需要曲線のシフトを関連づける。
8	価格受容者の想定と供給	完全競争市場では全売り手が価格受容者になることを学ぶ
9	供給曲線と供給の法則	価格受容者としての売り手の行動の性質を考える
10	供給量と供給	「供給量」と「供給」の違いを学ぶ
11	供給の変化、供給曲線のシフト	身近な事象を通じて「供給量」の変化や、「供給」の変化について学ぶ。供給の変化と供給曲線のシフトを関連づける。
12	均衡点	需要曲線と供給曲線を一緒に描き、均衡点を見つける。また、需要曲線や供給曲線がシフトするとき、価格や取引量がどうなるかを考える。
13	独占市場と寡占市場	独占市場と寡占市場について、それぞれの市場の構造的な特徴を学ぶ
14	独占市場の分析	独占市場での売り手の意思決定を学ぶ
15	寡占市場の分析	寡占市場での売り手の意思決定を学ぶ

授業科目名	マクロ経済学Ⅰ（経）	担当教員名	磯谷　明徳				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。 　なお、この「マクロ経済学Ⅰ」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学Ⅱ（2年次春学期）で講義されるのを注意して欲しい。 上で記述のように、マクロ経済学Ⅱは２年次春学期に開講される。マクロ経済学Ⅰに続いて、マクロ経済学Ⅱを連続して履修することを強く推奨する。
到達目標	・　マクロ経済学の基本的な概念を理解する。 ・　現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。 ・　マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	出席＋ミニッツペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定
	レポート		
	定期試験	50	期末試験
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	小テストを複数回行う予定である。小テストの実施と合わせて、解答とその解説を行うので、講義スケジュールに変更が生じる場合がある。このことを予め了解願いたい。

授業の計画		
1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か①	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か②	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定①-1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定①-2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定②-1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定②-2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定③-1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定③-2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定④-1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定④-2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定⑤-1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定⑤-2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析

授業科目名	経済原論Ⅰ（経）	担当教員名	関野　秀明				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係にいかなる肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。
到達目標	①貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する ②剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する ③成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する ④資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する ⑤利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論‐マルクスのすすめー』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。

事前受講を推奨する科目		
	経済学入門	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『インフレ不況と資本論』	関野秀明	新日本出版社	2024年

備考	

授業の計画		
1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4　貨幣論1	交換過程論　貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段　蓄蔵貨幣　支払手段　世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程　絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積　資本主義の歴史的傾向

授業科目名	国際経済学入門（経・公）	担当教員名	猿渡　剛				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本授業は、国際経済学およびグローバルビジネスの基礎を、理論と現実の両面から理解することを目的とします。 従来の国際経済学が前提としてきた「自由貿易は望ましい」という単純な理解にとどまらず、現代のグローバル経済において生じている格差、対立、制度的制約、文化的差異に着目し、理論の限界と現実との乖離を検討します。 そのうえで、企業が国境を越えて活動する際に直面する「隔たり（CAGE）」を踏まえ、適応（Adaptation）・裁定（Arbitrage）・集約（Aggregation）といったAAA戦略の枠組みを学ぶことになります。 本授業では教科書を使用せず、スライド資料・具体的事例・ディスカッションを通じて、国際経済の現実を自らの言葉で説明できる力の養成を目指します。
到達目標	本授業の到達目標は以下のとおりです。 ① 国際貿易・グローバル化に関する基本的な理論（比較優位等）を説明できる ② グローバル化に伴う利害対立（格差・環境・政治）を具体例に基づいて説明できる ③ 国家間の隔たり（文化・制度・経済）を踏まえた企業行動を理解できる ④ AAA戦略（適応・裁定・集約）の枠組みを用いて企業活動を分析できる ⑤ 現実の経済問題について、自らの見解を論理的に記述・議論できる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	５０	ミニッツペーパー、授業への参加
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	５０	基本概念の理解および論述力
	その他		

事前・事後学習	事前学習としては、指示された資料・スライドに目を通し、基本概念を確認しておいてください。 事後学習としては、授業内課題を踏まえ、自分の考えを整理しておいてください。また、スライド・配布資料を再確認し、重要概念を復習してください。そして、ニュース等の具体事例と関連付けて理解を深めてください。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『コークの味は国ごとに違うべきか』	パンカジ・ゲマワット	文藝春秋	２００９
	『ＶＵＣＡ時代のグローバル戦略』	パンカジュ・ゲマワット	東洋経済新報社	２０２０
	『資本主義と自由』	ジョセフ・Ｅ・スティグリッツ	東洋経済新報社	２０２５

備考	ＰＰＴスライドを中心に授業を進めていきます。 毎回、ミニ課題（選択 or 記述）を課します。 学生の回答を踏まえたフィードバックを行います。 必要に応じて、簡単なディスカッションを行います。

授業の計画		
1	イントロダクション	授業構成の説明、国際経済の基本視点、学習課題の提示
2	比較優位と貿易の基本原理	比較優位の理解、貿易発生の仕組み、事例による確認
3	理論の限界：現実とのズレ	理論前提の検討、現実との乖離、課題による理解深化
4	グローバル化と格差	所得格差の把握、グローバル化の影響、事例分析
5	グローバル化と政治	貿易政策の整理、政治的対立の理解、制度の検討
6	グローバル化と環境問題	環境問題の整理、経済活動との関係、持続可能性の検討
7	利害対立の構造	利害関係の整理、対立構造の把握、具体例の検討
8	セミ・グローバリゼーション	統合度の確認、不完全統合の要因、事例による理解
9	CAGEフレームワーク	距離概念の整理、企業行動への影響、具体事例の分析
10	グローバル戦略としてのＡＡＡ	戦略類型の整理、企業行動の理解、事例による検討
11	適応戦略	文化差への対応、制度適応の理解、事例分析
12	裁定戦略	コスト差の活用、倫理問題の把握、事例検討
13	集約戦略	規模の経済の理解、統合の効果、限界の検討
14	ケース分析	企業事例の分析、戦略と組織の関係、課題整理
15	まとめ	授業内容の振り返り、主要概念の整理、試験対策

授業科目名	ミクロ経済学II	担当教員名	野津　隆臣				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	ミクロ経済学の基本的な考え方や基礎的な知識を学ぶ。特に、 自己の幸せ追求と豊かな社会の構築がどこまで両立するかについて学ぶ。 　私たちは、ものの生産、交換（売買）、消費が行われている世の中で生活している。ミクロ経済学Iでは、売買の当事者たちが自らの幸せを第一に考えるときの行動について学んだ。では、彼らの取引は世の中的にどう評価することができるだろうか。果たしてよいものだろうか。よいにせよ悪いにせよその善悪について、ミクロ経済学ではどのような考え方をするのだろうか。これらについて学んでいく。ミクロ経済学Iの内容について復習を交えながら進める。 　ミクロ経済学の対象は広い。そこで上記内容と併せて、担当教員が専門的に勉強している領域を紹介したい。
到達目標	身のまわりの事象をミクロ経済学の専門用語にあてはめて考えられる。 ・限界支払用意について理解し説明できる。消費者の意思決定問題を説明できる。個別需要曲線、市場需要曲線を導出できる。 ・限界費用について理解し説明できる。企業（生産者）の利潤最大化問題を説明できる。個別供給曲線、市場供給曲線を導出できる。 ・余剰を説明できる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	ミニットペーパー
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業の予習として、2時間以上をかけて講義資料を参照すること。 毎回の授業の復習として、2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業で提示される問いかけを検討すること。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
		教科書は使用しない		

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ミクロ経済学の第一歩』	安藤至大	有斐閣	2021
	『マンキュー入門経済学』	N・グレゴリー・マンキュー	東京化学同人	2025

備考	教科書は指定せず、授業は講義スライドを用いて進める。

授業の計画		
1	イントロダクション	経済学の専門用語を用いて身近な事象を表してみる
2	事前知識の確認	「需要量」や「需要」、「供給量」や「供給」等の用語を確認する。グラフの読み方を確認する。
3	限界支払用意	限界支払用意について知る。消費者の意思決定について考える。
4	個別需要曲線	消費者ごとの需要曲線を描く。取引から消費者が得る「おトク感」をどのように捉えるかを学び、その計算をする。
5	市場需要曲線、消費者余剰	消費者全体の需要曲線を描く。消費者全体のおトク感を計算する。
6	生産と生産要素	生産要素の投入で生産物が得られることについて考える
7	費用と利潤	生産者にとっての費用と利潤について考える
8	供給量の決定、個別供給曲線	生産者ごとの供給曲線を描く。生産者余剰について知る。
9	市場供給曲線、生産者余剰	生産者全体の供給曲線を描く。生産者余剰を計算する。
10	均衡点と総余剰	均衡点と消費者余剰、生産者余剰をみてみる
11	均衡点と総余剰（2）	総余剰を学び、均衡点の総余剰を考えてみる
12	さまざまな資源配分と総余剰最大化の意義	数多くある資源配分のなかで市場経済は悪くないことを知る
13	モデルと経済問題	身近な事象をモデルで説明することを意識してみる
14	モデルと経済問題（2）	身近な事象をモデルで説明してみる
15	公共政策とミクロ経済学	ミクロ経済学が公共政策にどのように応用されるかを議論する

授業科目名	マクロ経済学II	担当教員名	磯谷　明徳				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、「マクロ経済学Ｉ」では取り扱わなかった政府の役割や外国との貿易を考慮に入れた議論と解説が行われ、マクロ経済学Ｉと合わせて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問の全体像が明らかなるような形での講義が行われる。 　なお、この講義は、1年次秋学期に開講された「マクロ経済学Ｉ」から連続した講義である。したがって「マクロ経済学Ｉ」の講義内容を前提として本講義「マクロ経済学II」の授業計画が立てられている。この点を、本講義の履修に際してはくれぐれも注意してもらいたい。（要するに、1年次での「マクロ経済学Ｉ」を履修済みであることが望ましい。）
到達目標	・　マクロ経済学の基本的な概念を理解する。 ・　現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。 ・　マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	ミニッツペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定。
	レポート		
	定期試験	50	期末試験
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。

事前受講を推奨する科目		
	マクロ経済学Ｉ	
	ミクロ経済学Ｉ	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	小テストを複数回行う予定であり、解答とその解説を行うので、講義スケジュールの変更が生じる場合がある。このことを予め了解願いたい。

授業の計画		
1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	IS-LM分析①	ケインズ体系とIS-LM分析についての復習
3	IS-LM分析②	IS曲線とLM曲線の導出
4	IS-LM分析とマクロ経済政策①	マクロ経済の安定性
5	IS-LM分析とマクロ経済政策②	マクロ経済政策の再検討
6	オープンマクロ経済学の基礎①	国際収支統計と為替レート決定の理論
7	オープンマクロ経済学の基礎②	マンデル=フレミングモデル
8	経済成長論①	ハロッド・ドーマーモデル（前編）
9	経済成長論①	ハロッド・ドーマーモデル（後編）
10	経済成長論②	ソローモデル（前編）
11	経済成長論②	ソローモデル（後編）
12	インフレーションとデフレーション①	物価指数と貨幣数量説
13	インフレーションとデフレーション②	ケインズ体系におけるインフレ・デフレの説明
14	マクロ経済学と所得分配①	国民所得と所得分配（カレツキ・モデル）
15	マクロ経済学と所得分配②	経済成長と所得分配（カルドア・モデル、パシネッティ・モデル）

授業科目名	経済原論II	担当教員名	関野　秀明				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	①90年代後半以降の「構造改革」、その後のアベノミクスとぞれを継承する政治の下で深刻化する貧困と格差、そして拡大する戦争準備の危機を、『資本論』第一部賃金論、資本蓄積論および第二部第一草稿、第三部商業信用論、銀行信用論や『57‐58年草稿』の恐慌論に立ち返り解明します。 ②アベノミクス「三本の矢」の相互促進的関係、アベノミクスの失敗と金融バブル誘導政策の関係、成長戦略の「株価・株主資本主義」的歪みを、『資本論』第二部、第三部の「バブルの論理」「資本の過多と過剰生産の相互促進論」「資本の物神性論」などに立ち返り解明します。 ③2008年に世界資本主義を揺るがした「リーマン・ショック」、その原因である「住宅関連バブル」を「史上最高に発達した『バブルの論理』」として解明します。
到達目標	①「ブラック企業」「社会保障へのバッシング」「株価・株主資本主義」「グローバル化と安全保障政策の転換」などを、統計的事実から理解すること。 ②量的金融緩和が大企業減税や労働規制緩和、社会保障の商品化、貿易、投資自由化と結合し株式バブルを誘導する、政策の相互作用を理解すること。 ③アベノミクス、成長戦略の本質、中央銀行信用バブルの論理をマルクス『資本論』に立ち返り理解すること。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		定期試験実施不可の場合別途指示

事前・事後学習	毎回の授業は「講義資料」を配布し進める。その講義について、参考書、関野秀明『金融危機と恐慌‐資本論で考える現代資本主義‐』新日本出版社、2018年、の当該箇所を読むことが予習、復習ともに役に立つ。授業、予習、復習、試験勉強、定期試験の全てを、授業で配布する「講義資料」と上記参考書を使って行う。

事前受講を推奨する科目		
	経済原論 I	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『金融危機と恐慌』	関野秀明	新日本出版社	2018年

備考	対面授業、対面定期試験を予定している。

授業の計画		
1	「ブラック企業と『資本論』(1)	1、「若者絡め取り」メカニズムとマルクス「相対的過剰人口論」
2	「ブラック企業と『資本論』(2)	2、「固定残業代」制度とマルクス「時間賃金論」 3、「無限の成果要求」とマルクス「出来高賃金論」
3	貧困、生活保護叩きと『資本論』(1)	1、貧困ゆえの「生活保護バッシング」 2、非正規労働の貧困。有期労働契約法改悪 3、電機正社員13万人大リストラという貧困
4	貧困、生活保護叩きと『資本論』(2)	4、「3つの貧困」を結ぶメカニズムと資本主義的格差 5、マルクス「資本の蓄積に照応する貧困の蓄積」論
5	「アベノミクスの貧困と戦争への道(1)	1、貧困の特徴　生活苦、非正規増大、正規処遇低下 2、格差の特徴　大企業・富裕層の高収益と労働者の低賃金 3、働く貧困と社会保障削減
6	「アベノミクスの貧困と戦争への道(2)	4、矛盾の反動的打開　多国籍企業化と安全保障政策の転換 5、『資本論草稿』における世界市場開拓論。恐慌と世界市場論。
7	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(1)	1、アベノミクスの不況脱却策と現実 2、アベノミクス「３本の矢」と金融バブルの形成
8	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(2)	3、バブルとは何かーマルクス「資本の過多と過剰生産の相互促進論」
9	アベノミクスの失敗と暴走(1)	1、繰り返される「異次元の金融緩和」の失敗 2、「金融緩和」から「成長戦略」待望への暴走
10	アベノミクスの失敗と暴走(2)	3、アベノミクス・バブル待望論と『資本論』第二部「バブルの論理」
11	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(1)	1、「成長戦略」の欺瞞性 2、「欺瞞性」の原因。株価・株主資本主義の台頭 3、アベノミクス「欺瞞性」の限界
12	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(2)	4、「株主資本主義」の本質。『資本論』第三部「バブルの論理」と「株式資本」論。
13	リーマン・ショック。発達したバブル(1)	1、ITバブル崩壊、2001年不況と住宅関連バブル 2、米国「新型」住宅関連バブル。そのメカニズム
14	リーマン・ショック。発達したバブル(2)	3、米国住宅関連バブルの崩壊。そのメカニズム
15	リーマン・ショック。発達したバブル(3)	4、住宅関連バブル崩壊と「過剰生産恐慌」 マルクス「金融危機と結合した過剰生産恐慌」論

授業科目名	経済統計＜経済統計Ⅰ＞	担当教員名	小栁　真二				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	経済統計を使いこなすには、どのような統計データがあるか、どのようにして作成されたものであるかを理解した上で適切なデータの選択や、効率的な収集を行う必要がある。本講義では、経済統計への向き合い方や、個々の統計の特性について解説を行い、また実際の分析事例を示す。特に、基本的な統計処理のほか、人口、景気動向、産業に関する統計データを広範に取り上げて解説する。
到達目標	・統計データの探索・収集・加工・可視化など基礎的な処理方法を習得する。 ・世の中にどのような統計データがあるか知識を広め、分析のレパートリーを増やす。 ・各種統計の利用シーンや有用性に加え、特有のクセや限界を理解する。 ・統計データを読み解く力を身につける。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点		
小テスト	40	各回の講義の後に実施
レポート	60	経済統計を用いた分析を実践するレポート
定期試験		
その他		

事前・事後学習	【事前】新聞・テレビ等の経済指標に関する報道で、どのような経済指標が、どのような場面・目的で利用されているか日常的にチェックしてください。 【事後】講義で取り上げる統計データに自らアクセスし、どのようなデータがあり、どのような分析が可能であるか確認してください。

事前受講を推奨する科目		

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『使用しない』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『経済統計の活用と論点(第3版)』	梅田雅信・宇都宮浄人	東洋経済新報社	2009
『経済統計の実際』	日本統計学会編	東京図書	2022

備考	

授業の計画		
1	イントロダクション	講義の方法、内容、スケジュール等について
2	統計分析の手法（1）	代表値、ばらつき、相関など
3	統計分析の手法（2）	時系列分析、季節調整など
4	人口に関する統計	国勢調査、人口動態統計、住民基本台帳人口、将来人口推計など
5	国民経済計算・国際収支	国内総生産、県内総生産、国際収支統計など
6	産業連関表	産業連関表の見方、産業連関表による分析、経済波及効果など
7	景気動向全般に関する指標	景気動向指数、景気ウォッチャー調査、日銀短観、RDEIなど
8	雇用に関する統計	労働力調査、毎月勤労統計、賃金構造基本統計調査など
9	消費・物価に関する統計	家計調査、消費動向調査、消費者物価指数など
10	所得・家計に関する統計	全国家計構造調査、住宅・土地統計調査など
11	企業財務・投資に関する統計	法人企業統計、日銀短観、建築着工統計、機械受注統計など
12	事業所・企業の構造に関する統計	事業所・企業統計、経済センサス、経済構造実態調査など
13	個別産業に関する統計（1）	製造業・商業・サービス業に関する統計
14	個別産業に関する統計（2）	観光に関する統計
15	全体のまとめ	講義の振り返り、レポートに関する指示など

授業科目名	金融論Ⅰ	担当教員名	鶴沢　真				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	・わが国の金融システムは、高度経済成長期における銀行中心の間接金融システムから、90年代後半のバブル崩壊後の銀行危機、2008年のリーマン・ショックに端を発する世界的な金融危機を経て、直接金融を中心とするシステムへ変わりつつあり、金融機関に求められる機能も大きく変化している。高齢化や人口減少を背景とした低成長のなかで企業の資金需要は低調な一方、家計においては貯蓄から投資への流れを促す政策やキャッシュレス化が推進されている。グローバル化の流れに加え、中央銀行においても金融政策が転換される等、金融機関にとっての外部環境も変化している ・金融の基本的機能、金融商品、金融市場に関して、金融ビジネスにおける実務に役立つよう具体的に講義していく。それぞれのテーマに応じた実際のトピックスや歴史上の事象等を提示し、実際の対応を紹介する。受講する学生は自らの考え方を整理し、わかりやすい説明ができるようになることが求められる
到達目標	・金融の基本的機能、金融市場や金融商品の仕組みを体系的に理解し、わかりやすく説明できる ・金融に関連した現実の課題や最近の動向について、理論に基づいた自分なりの見解を論じることができる ・金融商品の特性を正しく理解し、個人の資産運用や経済活動において適切な意思決定を行うことができる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	20	
	小テスト	40	
	レポート		
	定期試験	40	
	その他		

事前・事後学習	・教科書である「テキスト金融論　第2版」第1章から第15章にしたがって講義を進めます ・Google Classroomを利用し、講義資料をアップしますので、予習・復習を行って下さい

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『テキスト金融論 第2版』	堀江康熙・有岡律子・森祐司	新世社	2021

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。

授業の計画		
1	金融の役割	・イントロダクション（金融論Ⅰで学ぶこと） ・金融の基本的機能
2	金融機関の機能	・金融仲介と資産変換機能 ・情報生産機能
3	通貨の役割	・通貨とその機能 ・信用創造 ・キャッシュレス決済
4	資金の決済	・銀行振込と決済 ・中央銀行の役割
5	金融商品の価格	・金利の役割 ・リスク、価格と取引行動
6	金融資産のリターンとリスク（上）	・不確実性の存在と選好 ・リスク回避型投資家の行動
7	金融資産のリターンとリスク（下）	・ポートフォリオの選択 ・最適ポートフォリオとCAPM
8	金融取引と金融システム 市場取引型市場	・金融市場の機能とタイプ ・金融取引の類型 ・金融市場の類型化
9	債券市場の特徴	・債券市場と価格 ・債券利回りと変動
10	株式市場の特徴	・株式市場と株式 ・株価の変動と投資の尺度
11	証券化商品市場	・証券化商品 ・投資信託
12	金融派生商品市場Ⅰ	・先物市場と先物 ・先物価格の決定
13	金融派生商品市場Ⅱ	・オプション市場、コールとプット ・プレミアムの決定
14	金融派生商品市場Ⅲ	・通貨スワップと金利スワップ ・クレジット・デリバティブ
15	外国為替市場	・国際金融取引 ・外国為替市場と相場

授業科目名	財政学Ⅰ	担当教員名	嶋田　崇治				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	財政学とは、国家による貨幣を通じた統治のメカニズムを解明する学問である。無産国家が統治活動を行うためには、国民の同意を得て、税を強制的に徴収する必要がある。財政学Ⅰでは、この統治活動に必要な歳出・歳入を決定する民主的な手続きとしての予算、理念としての財政民主主義、基準となる諸原則を学び、歴史とともに変転する実態との距離を把握することを通じて、現実の財政制度の問題点を捉える視点を提示する。以上のような視点を身に付けるためには、財政に関する基礎知識を十分に学ぶ必要がある。とりわけ本講義では予算制度・税制を重点的に取扱い、日本財政の現状・特徴・課題を把握するための基礎作りを行う。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。①予算・税制を中心に財政の基礎知識を習得する②日本財政の現状・特徴・課題を十分に理解する。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	20	課題の提出
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	80	期末テスト
	その他		

事前・事後学習	事前学習としては以下で指定する参考書を読むことを推奨する。これは財政学Ⅰの大枠を理解することに役立つ。事後学習としては、講義に関連した課題を複数回課す。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は指定しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『財政学の扉をひらく』	高端正幸・佐藤滋	有斐閣	2020
	『幸福の増税論』	井手英策	岩波書店	2018

備考	形態：対面 ※状況の変化に応じて、いずれも変更の可能性がある ※期末テスト未受験あるいはアナウンスされた回数以上の欠席が確認された場合は失格とする

授業の計画		
1	ガイダンス＆講演	講義の進め方、評価方法の説明
2	財政とは何か1	財政、財政学とは何か、日本が直面する社会問題と財政
3	財政とは何か2	日本が直面する社会問題と財政
4	財政とは何か3	日本が直面する社会問題と財政
5	財政の基礎1	財政の三機能、政府間財政関係、歳出歳入構造
6	財政の基礎2	集権的分散システム、日本の財政制度と量出制入
7	予算1	財政民主主義
8	予算2	予算原則と実態との距離
9	予算3	予算制度、大蔵省統制、地方分権化
10	租税1	租税の特質、租税原則
11	租税2	租税の特質、租税原則
12	租税3	租税の特質、租税原則
13	租税4	租税原則、租税の分類
14	租税5	租税観
15	まとめ	まとめ

授業科目名	経済地理学Ⅰ	担当教員名	小栁　真二				
授業形態		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義では、経済地理学が研究対象とする諸分野のなかで、主に産業の立地や発展に関する内容を論じる。企業は、国民経済や地域経済を構成する存在であると同時に、これらの経済に依存する存在でもあり、企業の立地や産業の成長（および衰退）をとらえる上ではこうした相互作用への理解が重要である。本講義の進め方としては、企業の立地行動を規定する諸要因への知識を深めることを狙いに、基礎理論である立地論や、産業集積に関する理論を解説しつつ、随時各地の事例（既存研究や統計データ等）を取り上げることとする。
到達目標	・日々の経済的・社会的事象を、地域の視点や、経済地理学の枠組みからとらえることができるようになる。 ・産業の立地や再編の背景にある論理を理解する。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	40	各回の講義時間内に実施
	レポート		
	定期試験	60	
	その他		

事前・事後学習	講義資料では、具体的データを提示しますので、自分自身でデータを見て解釈してください。 また講義中に指示する参考資料に目を通してください。 日頃から、地域経済や、企業の立地（設備投資等）に関するニュースにアンテナを立て、チェックするようにしてください。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代の立地論』	松原宏編著	古今書院	2013
	『経済地理学への招待』	伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著	ミネルヴァ書房	2020
	『発展と格差の経済地理学』	山本健兒	古今書院	2026

備考	秋学期開講の「経済地理学Ⅱ」では、都市に主眼をおいて講義をおこなうため、併せて受講すると理解が深まります。

授業の計画		
1	イントロダクション	経済地理学とは何か、経済地理学のアプローチ、講義概要
2	農業の立地	チューネンの孤立国モデル、現代の農業立地
3	工業の立地（1）	ウェーバーの工業立地論
4	工業の立地（2）	現代日本の工業立地、研究開発機能の立地
5	商業の立地	クリスタラーの中心地理論、現代日本の商業立地
6	オフィスの立地	オフィスの立地、都市システム
7	対事業所サービス業の立地	情報通信業・広告業など対事業所サービス業の立地
8	対個人サービス業の立地	飲食業・医療福祉など対個人サービス業の立地
9	産業立地の事例	九州・中国地方の産業分析
10	産業集積の理論と事例（1）	産業集積論の系譜
11	産業集積の理論と事例（2）	都市集積論、進化経済地理学
12	産業集積をめぐる政策	クラスター政策など、日本における産業集積政策
13	イノベーションの地理学	知識、ネットワーク、近接性に関する理論
14	産学連携の空間特性	日本における産学連携イノベーションの空間特性
15	まとめ	講義の振り返り、要点まとめ

授業科目名	日本経済史	担当教員名	藤井　崇				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義では、古代から世界大戦期までの日本経済史にまつわる重要事項について解説する。
到達目標	○日本経済の特徴を実証的・理論的に把握することができる。 ○日本経済の将来動向を歴史から予測し、望ましい経済社会のために何が必要かを考えることができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	20～30	リアクションペーパーの提出を求める
小テスト		
レポート		
定期試験	70～80	理解力・論述力を問うものとなる
その他		

事前・事後学習	日本史の通史的な理解についての予習・復習をすること。

事前受講を推奨する科目		

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『日本経済史』	石井寛治	東京大学出版会	1976
『日本経済史』	杉山伸也	岩波書店	2012
『日本経済史』	武田晴人	有斐閣	2019

備考	日本経済史にかかわる各トピックスについて解説する授業である。通史的解説はしないので各自で学習・復習するか、「日本史概論」を履修すること。

授業の計画		
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	古代①	奈良時代の日本経済：班田収授法　三世一身法　墾田永年私財法　和同開珎などの解説
3	古代②	平安時代の日本経済：国司制と受領制　荘園制と荘園整理令などの解説
4	中世①	院政期の日本経済：律令国家の変質　検非違使庁　荘園公領制と知行国主制　王家領荘園　記録荘園券契所などの解説
5	中世②	鎌倉期の日本経済：鎌倉幕府の財政　御成敗式目　惣領制　地頭請所　下地中分　永仁の徳政令などの解説
6	中世③	南北朝・室町期の日本経済：建武政権の財政　室町幕府の財政　半済令　請負代官制　徳政一揆　日明貿易と明銭　撰銭令などの解説
7	中世④	戦国期の日本経済：戦国大名の財政　戦国大名分国法　検地などの解説
8	中近世	織豊期の日本経済：南蛮貿易　楽市楽座令　太閤検地　天正大判などの解説
9	近世①	江戸時代の日本経済①：寛永通宝　鎖国　参勤交代　などの解説
10	近世②	江戸時代の日本経済②：農業や産業の発展　農村経済　問屋制家内工業　田畑永代売買禁止令　打ちこわし　などの解説
11	近世③	江戸時代の日本経済③：貨幣改鋳　上米令　棄捐令　株仲間解散令　上知令　などの解説
12	近代①	近代の日本経済①：明治維新経済　戊辰戦争経済　日清戦争経済　などの解説
13	近代②	近現代の日本経済②：日露戦争経済などの解説
14	近代③	近現代の日本経済：第一次世界大戦経済などの解説
15	まとめ	時間調整か授業内容の振り返り

授業科目名	西洋経済史	担当教員名	長濱　幸一				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	日本にとって欧米社会は長らく憧れの目標でした。 21世紀になり、その影響力は小さくなったとはいえ、 世界の様々なルールは欧米がルーツのものが多いといえるでしょう。 本講義では、欧米の社会・経済の歩みを歴史的に追跡し、 現代の社会・経済がどのよう形成されてきたかを確認することを目標とします。 特に近代化・工業化の生成とその影響について考えてみましょう
到達目標	1.知識・・・西欧経済社会の各時代の特徴を理解できる 2.思考・・・図表を読み取り獲得した知識を活かして深い思考ができるようになる 3.表現力・・・課題や試験において適切な表現で記述できるようになる 4.その他・・・西洋経済史についての興味関心を高めることができる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	60	課題の取り組み状況
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	40	講義に関する内容を問います
	その他		

事前・事後学習	毎回、学習内容に関連した課題を課すことになります。 期限内に調査した内容を提出してもらいます。

事前受講を推奨する科目		
	西洋史	
	経済学史	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『西洋経済史』	奥西孝至ら	有斐閣	2012年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	講義内容は進度に応じて変化することがありますので了解してください。 毎回、課題を提出してもらうことになります。 一定の勉強量がなければ単位認定はされませんので、留意してください。

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の目的、成績の評価方法などについて説明します
2	中世ヨーロッパの農村世界	中世ヨーロッパの農村世界がどのような特徴を持っていたかを理解する
3	中世の都市世界と経済発展	中世ヨーロッパの都市世界の特徴、経済・社会の発展について理解する
4	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始	近世の商業の発達とヨーロッパの海外進出について、その特徴と経済的影響を理解することができる
5	17世紀の危機	オランダのヘゲモニー(覇権)の衰退を中心にヨーロッパ経済が縮小していった背景を検討します
6	産業革命を巡る論争	イギリス産業革命に関するマクロ的な指標を検討し、産業革命という現象がどのように理解されてきた学説の推移も検討します
7	工業化の社会的影響	革命性が否定されつつある「産業革命」が人々の生活や思考にどのような影響を及ぼしたのかを検討します
8	様々な工業化の経路①	大陸諸国を例に工業化の多様な経路を、国民国家の形成のプロセスの違いと絡めて学ぶ
9	様々な工業化の経路②	大陸諸国を例に工業化の多様な経路を、国民国家の形成のプロセスの違いと絡めて学ぶ
10	合衆国の独立の影響	合衆国独立の社会経済的影響を検討することにします
11	合衆国の台頭	南北戦争とそれ以降の経済発展について検討することにします
12	世紀末のヨーロッパ経済	第二次産業革命期のヨーロッパ経済を、イギリスの相対的な地位の低下と関連付けて学びます
13	第一次世界大戦から戦間期の欧米経済	第一次世界大戦勃発の背景・影響を踏まえた後、戦後復興から世界恐慌に至る経過を「不安定の中の安定」というキーワードで考察します
14	第二次大戦後の西洋経済	戦後のヨーロッパ経済が「混合経済」に代表されるように市場機能への疑念の基に再興した経過を理解し、現代のEUへの移行にも触れてみたいと思います
15	総括	ここまでの内容を総括することにします

授業科目名	国際経済学＜国際政治経済学Ⅰ＞	担当教員名	魏　芳				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義では、カネの国境を越えた取引の背景にある理論と、それが経済に与える影響を理解するため、国際経済学の基本的な知識と考え方を習得することを目的とする。 講義の前半では、国際収支統計と為替レートに関わる国際金融分野のトピックを学習する。変動相場制の仕組みや、為替レートがどのように決まるかなど、国際金融の基礎知識を身につける。後半では、国際マクロ経済学分野のトピックを学習する。対外経済取引がある下での財政・金融政策の効果を分析し、為替相場制度がマクロ経済政策に及ぼす影響を理解する。
到達目標	本講義では、国際金融および国際マクロ経済学の視点から、国際経済に関わる諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。国際収支とGDPの関係、為替レートの決定要因、開放経済における財政・金融政策の効果について、基礎的な分析手法を身に着ける。各トピックに応じて現実の制度・政策を紹介するとともに、具体的なデータ・事例を用いて国際経済の実態を把握し、グローバル社会が直面する諸問題について理解を深める。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	課題の提出
小テスト		
レポート		
定期試験	70	
その他		

事前・事後学習	講義ノートを事前にGOOGLE CLASSROOMにアップロードしておきます。 事前学習(予習)としては、前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。 事後学習(復習)としては、章末の理解チェックの演習問題を解き、自ら授業内容に照らして正答を確認しておくこと。 疑問点があれば課題のフィードバックで書くこと。

事前受講を推奨する科目	
国際経済学入門	
マクロ経済学	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『グラフィック　国際経済学』	阿部顕三・寶多康弘	新世社	2024

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『国際金融をつかむ（新版）』	橋本優子他著	有斐閣	2019
『コア・テキスト　国際経済学（第2版）』	大川昌幸著	新世社	2015
『入門・国際経済学』	石井安憲他著	有斐閣	1999

備考	教科書に沿って解説しますので、教科書を毎回持参してください。

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の概要・成績評価について
2	国際収支とGDP（1）	国際収支統計
3	国際収支とGDP（2）	GDPと経常収支
4	外国為替市場と為替レート（1）	外国為替の基礎
5	外国為替市場と為替レート（2）	為替レートと経常収支
6	為替レートの決定（1）	金利と為替レート
7	為替レートの決定（2）	物価水準と為替レート
8	GDPの決定（1）	閉鎖経済下のGDPの決定
9	GDPの決定（2）	開放経済下のGDPの決定
10	GDPと利子率の決定（1）	財市場におけるGDPと利子率
11	GDPと利子率の決定（2）	貨幣市場におけるGDPと利子率
12	GDPと利子率の決定（3）	ISーLM分析
13	国際資本移動とマクロ経済政策（1）	小国開放経済の均衡
14	国際資本移動とマクロ経済政策（2）	変動相場制でのマクロ経済政策
15	国際資本移動とマクロ経済政策（3）	固定相場制でのマクロ経済政策・まとめ

授業科目名	産業組織論Ⅰ	担当教員名	佐藤　隆				
授業形態		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論Ⅰでは、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当てて、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。
到達目標	①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動）、市場パフォーマンスの関係を理解する。 ②独占禁止政策を理解する。 ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	80	毎回確認小テストを実施。リアクションペーパーも参考
	レポート	20	期末レポート課題
	定期試験		行わない
	その他		

事前・事後学習	事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、確認小テストを行うとともに、配布プリントなどのわからない点を調べたり、参考書などでさらに理解を深める。

事前受講を推奨する科目		
	ミクロ経済学Ⅰ	
	応用ミクロ経済学	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『競争政策論（第２版）』	小田切宏之	日本評論社	2017年
	『産業組織論』	小田切宏之	有斐閣	2019年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『競争政策の経済学』	大橋弘	日本経済新聞社	2021年

備考	

授業の計画		
1	はじめに	講義全体の概略の説明
2	独占禁止法とは何か	競争政策とは何か？独占禁止法入門
3	産業組織論の方法論的基礎	SCPパラダイム：市場構造・市場行動・市場成果の相関関係と産業組織論の分析枠組み
4	市場支配力とは何か	ハーフィンダール指数と市場支配力（マークアップ）
5	産業の長期均衡	産業の長期均衡と企業戦略
6	コンテスタブル・マーケット理論	コンテスタブル・マーケット　航空産業の事例
7	地域独占産業の事例	日本の電力産業の構造改革
8	競争政策の事例	携帯電話産業の競争政策
9	共謀と暗黙の協調	カルテル（談合）と暗黙の協調
10	M&Aについて（１）	Ｍ＆Ａの定義・理論
11	M&Aについて（２）	事例研究；FFGと十八銀行の経営統合など
12	垂直的取引制限	再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
13	ネット取引とプラットフォーム（１）	プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
14	ネット取引とプラットフォーム(２）	間接的ネットワーク効果とデータの集中による市場集中の問題
15	全体のまとめ；独占禁止法教室	独占禁止法の公正取引委員会事務局講師による解説